

2016 年度湘南藤沢学会成果報告書

子どもたちの「つらい・痛い」を緩和する！

～医療の新しい環境デザインとケアを探る～

研究代表 看護医療学部2年 石田磨美

【活動目的】

近年、小児医療ケアの高度化により、「痛い・苦しい」検査や治療が増えている。しかし、これらの検査・治療に伴う「つらさ」を緩和するためのケアや検査・治療等の環境や、小児の入院から在宅までのケアをトータルで提供するサポートは必ずしも十分ではないのが現状である。そのため、子どもたちは検査や治療に恐怖心を持ち、医療に伴う辛い体験がトラウマになる場合も少なくない。また、恐怖を緩和させるための方法としてケアではなく、検査や治療中に動いたり暴れたりしないように、鎮痛剤等の薬物を使用する場合もある。

一方で、子どもの医療に伴う辛さや恐怖を緩和させるためのケアを開発したり、検査室や治療室、病院のデザインを工夫して、子どもとその家族の精神的な負担を軽減することに努めている医療機関等もある。さらに、子どもの不安に配慮した検査機器を開発して成果を上げている企業や、子どもをエンカレッジするサポート方法を提案する NPO 団体等も増えてきている。

本研究では、治療ケアをうけている子どもをエンパワーメントするサポートケアおよび環境デザインについて文献及びインタビューによって調査し、これらを普及するための方策を検討することを目的とした。

【活動概要】

期間：2016年5月24日（火）～2017年3月11日（土）

方法：1. 文献調査：①子どもの権利の現状と課題、②小児の検査治療に伴い小児ケアの現状と課題、③小児医療における検査・治療・入院等の環境デザインとその影響の3つについて文献検討を行い、現在の小児医療における条約やケア、課題について整理した。

2. インタビュー調査：文献調査の結果を踏まえ、治療をうけている小児とエンパワーメントするサポートケアおよび環境デザインを提供している団体をインタビュー対象として選択した。

(1)特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ

：小児医療において、ファシリティドッグの導入やビーズ・オブ・カレッジ®などの子どもをエンカレッジする方法の普及活動を行っている。

(2)GE ヘルスケア・ジャパン株式会社

：小児患者だけでなく、あらゆる世代の患者の快適性を考慮して MRI、CT などの検査機器を開発している。

【結果】

ビーズ・オブ・カレッジ®は2009年から累計1010人、13病院に導入している。子どもたちがビーズを集めることによって、治療の励みや勇気づけになり、医療者や他の患者とのコミュニケーションのツールともなっていた。

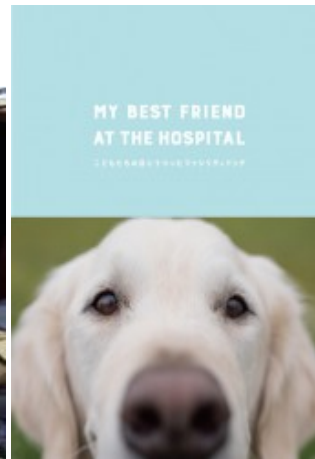
ファシリティドッグは入院中の子どもたちとその家族を訪問して一緒に遊ぶだけでなく、大きな苦痛を伴う検査の付き添いをしたり、手術を怖がる子と一緒に手術室に入り、麻酔で眠るまで傍で見守る等の仕事をしてきた。入院中の中にも楽しみが出来ることにより、辛い治療と闘うための勇気と、入院・治療に対する前向きな気持ちを持つことの助けになっていた。

検査中の騒音の軽減やデザイン性を重視したMRI(商品名：SIGNA Pioneer)の開発によって臨床の場で鎮静剤の使用が4分の1になったという成果が報告されている。CT（コンピューター断層撮影）やMRI（核磁気共鳴画像）を行う際には、診断で用いる鮮明な画像を得るために検査中の子どもが動かないように、麻酔薬や鎮痛剤を使用している医療機関は少なくないが、音やデザインを考慮した検査器機等の使用により小児患者の精神的・身体的な負担軽減に繋がることがわかつ



た。

<ビース・オブ・カレッジ®>



<ファシリティドッグ>

【考察】

1 サポートケアは、治療や検査に対する苦痛や恐怖を取り除く重要なケアである。これにより精神的な負担が軽減され治療に伴うトラウマを残すことなく、小児の健全な発達や成長が促すことができると考えられる。

2 現状ではサポートケアを導入している病院が少ない。導入を妨げている要因として、資金等の医療機関の経済的要因、認知度が低いこと、日本の文化慣習がある。

3 サポートケアは、不安の軽減や鎮静剤の使用が減少することなどの効果が報告されており、小児患者の苦痛や恐怖の軽減のためには有効である。今後は、このような研究結果を広く周知し、多くの医療機関が導入できるよう働きかけていく必要がある。

【謝辞】

本研究を進めるにあたり、インタビュー調査にご協力いただきましたシャイン・オン・キッズの皆様、GE ヘルスケア・ジャパンの皆様、ご指導下さった慶應義塾大学看護医療学部准教授の小池智子先生、共に活動してくれたSAPnmcのメンバー、資金面で支えてくださった湘南藤沢学会の皆様へ深く感謝申し上げます。